

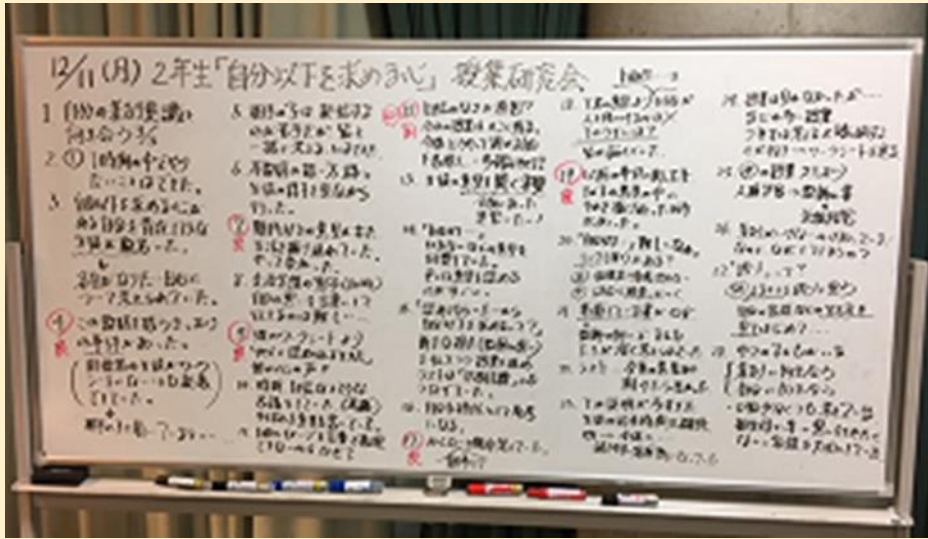
ホワイトボードを活用し「対話」を重視した 校内研修の活性化

美馬市立穴吹中学校

授業研究会では、すべての教職員の意見をホワイトボードに集約し可視化する。キーワードは「**対話**」
2年生道徳「自分以下を求める心」授業研究会

2年生を対象に「自分以下を求める心」の研究授業

*ホワイトボードミーティング®の手法を用いた
授業研究会



発散・・・参観者が授業で感じたことなどを自由に発言。その際、ファシリテーターがホワイトボードに出された意見を書くことで、発言者は自らの意見を整理しながら発言できる。

収束・・・ホワイトボードに出された意見に対して、軸を決めて意見の構造化を行う。

活用・・・会議で収束された意見に基づいて、具体的な行動や活動計画を立てる。



研究授業の様子。ホワイトボードだけでなく、タブレットも活用し、互いの意見を出し**対話**することで自分と異なる意見に触れる。

授業研究会の様子。ファシリテーターがホワイトボードに出された意見を明示することで、意見の重複を避けながら会を進行できる。100以上の意見が毎回出される。

研究会の後、ホワイトボードを見ることで、更に内容が自分事として深まり、自分ならどうするか自然に前向きな**対話**が続く。

穴吹中学校では、様々な校内研修や生徒の学習活動において、ホワイトボードを活用し、活発な**意見交換**や**対話**を行っています。参加者がどんどん意見を出し合い、ファシリテーターがその意見をホワイトボードに「見える化」し、何を話しあっているのかを明確にします。また、意見を発散させた後、参加者がその意見を収束させていき、意見の構造化を行います。その後、これからの具体的な行動計画を考え全員で共有します。この手法を用いることで、より効果的・効率的に会議が進行し、出された意見を全員で共有することで、授業改善や意識の変容につなげています。

校内研修を終えての感想



★穴吹中学校では普段からホワイトボードを活用した**対話**がなされているので、学級活動などでも生徒の意見が出やすい雰囲気づくりができるようになってきている。(若手教員)

★教職員も生徒も意見を出しやすい環境づくりが大切だとの思いから、ホワイトボードを活用した**対話**を繰り返し行っている。この手法を用いることは、ボードに書かれた他者の意見を尊重しながら、自分の意見を伝えることができるので、参加者全員が納得しながら議論を深めていくことができる。つまり、次に自分が何をすべきかが明確になる。(管理職)

この手法で生徒たちが「生徒心得」を見直し取組も

← 「生徒心得見直し'23」パンフレットへ

生徒たち自身がホワイトボードを活用して、学校生活の気になる課題を話し合い、見直しに至るまでの流れを示した資料です。



美馬市立 穴吹中学校
Anabuki Junior High School

〒777-0005
徳島県美馬市穴吹町穴吹字井口23番地
TEL 0883-52-1046
FAX 0883-53-1702

* ちよんせいこさん (株式会社ひとまち代表取締役) が開発したホワイトボードを活用して進める会議の方法。